

科目名	作業療法評価学Ⅱ						
科目名(英)	Introduction to OT Assessment Ⅱ						
単位数	4	時間数	60時間	担当者	野村 和代		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	作業療法士として病院で勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 3年生						
授業概要	作業療法のアプローチを行う上で必要なことは、対象となるクライアントのことを知ることである。その為には身体的・精神的・社会的な情報を、直接的・間接的に収集し統合し、解釈しなければならない。この授業では、主に身体的な情報を集める為の技術を身に付ける。そしてその集めたデータがクライアントの生活にどう結びついていくのかを考える。						
授業形式	講義:	○	演習:	実習:	○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	目標						
	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他		
	○	○				作業療法評価の目的と流れを説明することができる。	
	○	○				作業療法評価法の様々な種類を説明できる。	
	○	○	○	○		作業療法評価に用いる検査、測定を学生同士で行うことができる。	
	○	○				評価結果から得られたデータが実際の生活にどう影響しているかを説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:1. 標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 医学書院 2. PT・OTのための測定評価 ROM測定 三輪書店 3. 新・徒手筋力検査法 協同医書出版 4. 運動療法のための機能解剖学的触診技術上肢 メジカルビュー社 5. 運動療法のための機能解剖学的触診技術下肢・体幹 6. ICFの理解と活用 人が「生きること」「生きることの困難(障害)」をどうとらえるか きょうせけん/萌文社						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション 総論					
	2	・身体計測 ・バイタルサイン				配布プリントを復習し、実技で行ったことを可能な限りもう一度行ってみる。	
	3	・関節可動域測定 オリエンテーション、上肢(肩、肘、前腕)				実技で行ったことを可能な限りもう一度行ってみる。配布プリントを埋めて、次回行うこと頃を予習する。	
	4	・関節可動域測定 上肢(前腕、手関節)				実技で行ったことを可能な限りもう一度行ってみる。配布プリントを埋めて、次回行うこと頃を予習する。	
	5	・関節可動域測定 上肢(指)				実技で行ったことを可能な限りもう一度行ってみる。配布プリントを埋めて、次回行うこと頃を予習する。	
	6	関節可動域測定 上肢(上肢全般の復習) ・ 下肢(股関節)				実技で行ったことを可能な限りもう一度行ってみる。配布プリントを埋めて、次回行うこと頃を予習する。	
	7	・関節可動域測定 下肢(膝・足関節)				実技で行ったことを可能な限りもう一度行ってみる。配布プリントを埋めて、次回行うこと頃を予習する。	
	8	・関節可動域測定 体幹 / 筋力の評価 器具を使った筋力測定				実技で行ったことを可能な限りもう一度行ってみる。配布プリントを埋めて、次回行うこと頃を予習する。	
	9	・徒手筋力検査法 上肢(キーマッスル)				実技で行ったことを可能な限りもう一度行ってみる。配布プリントを埋めて、次回行うこと頃を予習する。	
	10	・徒手筋力検査法 上肢(肩・肘関節)				実技で行ったことを可能な限りもう一度行ってみる。配布プリントを埋めて、次回行うこと頃を予習する。	
	11	・徒手筋力検査法 上肢(手関節・手指)				実技で行ったことを可能な限りもう一度行ってみる。配布プリントを埋めて、次回行うこと頃を予習する。	
	12	・徒手筋力検査法 下肢(股関節・膝関節)				実技で行ったことを可能な限りもう一度行ってみる。配布プリントを埋めて、次回行うこと頃を予習する。	
	13	・徒手筋力検査法 下肢(足関節・足部)/ 体幹				実技で行ったことを可能な限りもう一度行ってみる。配布プリントを埋めて、次回行うこと頃を予習する。	
	14	・徒手筋力検査法 国家試験に出題されやすい部位 /MMT全体の復習				実技で行ったことを可能な限りもう一度行ってみる。	
	15	・実技テスト					
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				60%
	実技試験	◎	◎	◎	◎		40%
履修上の注意	実技指導時の服装は、学則及び臨床実習時の心得に順ずる。(実習着・実習靴・白い靴下・長髪はまとめる)						

科目名	身体障害作業療法学						
科目名(英)	OT for Physical Dysfunction						
単位数	6単位	時間数	60時間	担当者	松田 茂		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	作業療法士として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部3年						
授業概要	臨床での身体障害の作業療法は様々な疾患や障害と出会うことになる。それゆえ多くの疾患を知る必要がある。この授業では、作業療法の介入の基礎となる一般的なことや、疾患に対する具体的な作業療法のアプローチを学ぶ。前期には脳血管障害を行う。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:	△	
					実技:		
					※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				身体障害の概念を説明できる。	
	○	○	○			身体障害に対する作業療法の基本的な考え・役割・手段・流れを説明できる。	
	○	○	○			作業療法の対象となる代表的な疾患(脳血管障害)について説明できる。	
	○	○	○			作業療法の具体的な介入方法を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション、総論				配布プリントを復習する。	
	2	総論 関節可動域訓練				配布プリントを復習する。	
	3	総論 関節可動域訓練(実習)				配布プリントを復習する。	
	4	総論 筋力低下・持久力低下				配布プリントを復習する。	
	5	総論 筋力低下・持久力低下(実習)				配布プリントを復習する。	
	6	総論 感覚、総論 感覚(実習)				配布プリントを復習する。	
	7	総論 筋緊張				配布プリントを復習する。	
	8	総論 ボディメカニクス・姿勢とバランスの制御				配布プリントを復習する。	
	9	総論 廃用症候群				配布プリントを復習する。	
	10	総論 物理療法				配布プリントを復習する。	
	11	各論 脳血管障害				配布プリントを復習する。	
	12	各論 脳血管障害				配布プリントを復習する。	
	13	各論 脳血管障害				配布プリントを復習する。	
	14	各論 脳血管障害				配布プリントを復習する。	
15	前期の振り返り						
評価方法	(1)レポートを作成する (2)定期試験(筆記試験)を実施する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				80%
	小テスト						
	宿題・レポート	◎	◎	◎			20%
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	発達障害作業療法学						
科目名(英)	Occupational Therapy for Developmental Disorders						
単位数	4	時間数	60時間	担当者	小野 仁		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	病院・児童福祉施設で作業療法士として勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 3年						
授業概要	発達障がい領域の作業療法を展開するうえで必要な人間発達学を基盤とした関連知識を統合し、本人や家族の成長やライフサイクルの変化に対応した関わりのできる作業療法士を目指す。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:	△	
				実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				人間発達学で学んだ発達過程、発達領域に関する知識を作業療法評価に活用できる。	
	○	○				発達障害領域における作業療法の理念、目的、役割、一般的な流れを説明することができる。	
	○	○				代表的障害(発達障害、脳性まひ)について臨床像を説明することができる。	
	○	○				上記障害の治療、指導、援助内容を考えることができる。	
	○	○		○		特別支援学校での介護等体験実習に参加し、児童・生徒との関わりで安全に配慮することができる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:長崎 重信監修、作業療法学7 ゴールド・マスター・テキスト 発達障害作業療法学、メジカルビュー社 参考文献:岩崎 清隆・他、発達障害と作業療法[実践編]、三輪書店 細田多穂、人間発達学テキスト、三輪						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	子どもの発達と作業療法 姿勢・運動発達				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等を配信します	
	2	子どもの発達と作業療法 感覚統合機能の発達、認知・思考機能の発達				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等を配信します	
	3	子どもの発達と作業療法 コミュニケーション機能の発達、子供の発達と遊び、セルフケアの発達と遊び				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等を配信します	
	4	評価 発達障害領域の作業療法評価				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等を配信します	
	5	評価 発達障害領域の作業療法評価				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等を配信します	
	6	治療的アプローチ 感覚統合機能に対するアプローチ				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等を配信します	
	7	治療的アプローチ 感覚統合機能に対するアプローチ				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等を配信します	
	8	治療的アプローチ 感覚統合機能に対するアプローチ				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等を配信します	
	9	治療的アプローチ 感覚統合機能に対するアプローチ				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等を配信します	
	10	治療的アプローチ 姿勢と運動へのアプローチ				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等を配信します	
	11	治療的アプローチ 姿勢と運動へのアプローチ				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等を配信します	
	12	治療的アプローチ 姿勢と運動へのアプローチ				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等を配信します	
	13	治療的アプローチ 姿勢と運動へのアプローチ				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等を配信します	
	14	まとめ～介護体験実習に向けて～				復習をしておくこと、必要時にClassiで問題等を配信します	
15	介護体験実習ガイダンス				介護体験実習に向けて、復習、準備をしておくこと		
評価方法	(1)授業の中で小テストを実施します。(2)定期試験(筆記)を実施します。(3)介護体験実習後にレポートを実施します。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				70%
	小テスト	○	○				10%
	レポート、Classiの解答	○	○		○		20%
履修上の注意	前期課程履修後に特別支援学校での2日間の介護体験実習を7月中に実施します。日程は日程調整の上告知します。 その他、必要なものについては事業の中で提示をします。						

科目名	精神障害作業療法学 I						
科目名(英)	OT for Psychological Disorder I						
単位数	4	時間数	60時間	担当者	脇元 啓行		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	作業療法士として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部3年						
授業概要	①精神医学の歴史と作業療法の歩みを知る ②精神保健・福祉領域における法律・施策を理解する ③精神科リハビリテーションと、その中での作業療法の役割を理解する ④精神科作業療法の構造・要素を理解する ⑤精神障害特性・モデルと回復過程を理解する						
授業形式	講義:	○	演習:	△	実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:	○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				精神医学の歴史と作業療法の歩みの概略を説明できる。	
	○	○				精神保健・福祉領域における法律・施策を説明できる。	
	○	○				精神科リハビリテーションと、その中での作業療法の役割を説明できる。	
	○	○				精神科作業療法の構造・要素と、精神障害特性・モデルと回復過程を説明できる。	
	○	○		○		インテーク面接を実践でき、評価結果をまとめることができる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:①香山 明美 他編:精神障害作業療法-生活を支援する一 医歯薬出版 ②オリジナル資料 参考文献:1)富岡 詔子他編集 日本作業療法協会監修:作業治療学2 精神障害(作業療法学全書):協同医書出版社 2)石井 良和他編:精神障害領域の作業療法 中央法規 3)屋田 源四郎著:統合失調症患者の行動特性 金剛出版 4)松井 紀和編著:精神科作業療法の手引き 牧野出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション 精神障害者処遇の歴史及び精神医学の発展				見学実習での精神科での疑問などをまとめる。	
	2	日本の精神医学の歴史 精神障害者支援に関わる法・制度				授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。	
	3	精神障害における生活障害と障害特性				授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。	
	4	精神疾患の成り立ちと機能障害				授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。	
	5	作業療法の構造と実践形態				授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。	
	6	精神障害作業療法の実践(作業療法の導入)				面接演習のための準備を行う。	
	7	精神障害作業療法の実践(作業療法の導入・インテーク面接実習)				面接演習の結果をまとめ、レポートを作成する。	
	8	精神障害作業療法の実践(作業療法の評価)				授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。	
	9	精神障害作業療法の実践(作業療法の評価) 精神障害作業療法の実践(目標の設定と作業療法計画)				授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。	
	10	回復過程における作業療法の実践				授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。	
	11	回復過程における作業療法の実践				授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。	
	12	精神障害作業療法に関連する理論・モデル・技法				授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。	
	13	事例検討(グループワーク)				事例検討のまとめ作業を行う。	
	14	事例検討(グループワーク)				事例検討のまとめ作業を行う。	
15	事例検討(発表) 前期の振り返り				事例検討の結果をまとめグループ毎に発表し、レポートを作成する。		
評価方法	(1)授業の中で小テストを実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	小テスト	◎	◎		◎		20%
履修上の注意	※その他の参考文献は、授業内資料でその都度提示していく。						

科目名	装具学									
科目名(英)	Orthotics									
単位数	2	時間数	30時間	担当者	安部 剛敏					
実施年度	2020年度	実施時期	前期	担当者実務経験	作業療法士として病院勤務					
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部3年									
授業概要	1.リハビリテーションにおける装具療法の目的と作業療法士の役割を理解する。 2.各種装具の目的と分類を知ることができる。 3.上肢疾患に対する装具の適応と役割、構造的特徴について理解する。 4.スプリント製作実習を通して製作手順を知り、チェックアウトもできるようになる。									
授業形式	講義:	○	演習:	○	実習:	○	実技:	○	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○	○				装具療法における作業療法士の役割を理解することができる				
	○	○				各種装具の特徴と適応を理解することができる				
	○	○	○			スプリントを製作することができ、チェックアウトもできるようになる				
テキスト・教材 参考図書	教科書:1)大庭潤平:義肢装具と作業療法 評価から実践まで. 医歯薬出版株式会社 参考文献:1)大嶋伸雄:身体障害領域の作業療法.中央法規、2)日本作業療法士協会:作業療法技術学1 義肢装具学.協同医書出版社、3)清水順市:リハビリテーション 義肢装具学. MEDICAL VIEW									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	コースガイダンス								
	2	装具学総論					振り返りシートで復習すること 小テストの学習をすること			
	3	下肢装具総論					振り返りシートで復習すること			
	4	脳血管障害における下肢装具					振り返りシートで復習すること 小テストの学習をすること			
	5	体幹装具					振り返りシートで復習すること			
	6	肩および肘関節装具					振り返りシートで復習すること 小テストの学習をすること			
	7	末梢神経損傷におけるスプリント療法①(総論)					振り返りシートで復習すること			
	8	末梢神経損傷におけるスプリント療法②(各論)					振り返りシートで復習すること 小テストの学習をすること			
	9	スプリント製作実習オリエンテーション					振り返りシートで復習すること			
	10	スプリント製作実習①(指スプリント)					振り返りシートで復習すること			
	11	スプリント製作実習②(短対立スプリント)					振り返りシートで復習すること			
	12	スプリント製作実習③(短対立スプリント)					振り返りシートで復習すること			
	13	スプリント製作実習④(カックアップスプリント)					振り返りシートで復習すること			
	14	スプリント製作実習⑤(カックアップスプリント)					振り返りシートで復習すること			
	15	事例検討					振り返りシートで復習すること			
評価方法	(1)授業の中で小テストを4回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%			
	小テスト	◎	◎	○			20%			
履修上の注意										

科目名	ADL						
科目名(英)	Activities of Daily Living (General)						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	安部 剛敏		
実施年度	2020年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目	作業療法士として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部3年						
授業概要	ADL(日常生活活動)の位置づけを知り、特に身体障害領域で用いる ADL評価について教授する。また、ADLにおける具体的支援の基本知識と技能についても実技を通して学習する。併せて、ADLを支援するうえで必要な移動補助具について理解を深め、適切に使用することができるようになることも目的とする。						
授業形式	講義:	○	演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				ADLの定義と分類を整理し説明することができる	
	○	○				ADL評価で用いるFIMとBIIについて理解し、評価することができる	
	○	○	○			OSCEを用いてADLの技能を修得することができる	
	○	○				ADLおよびIADLの問題点と援助の視点を説明することができる	
テキスト・教材 参考図書	教科書:1)藤井浩美:日常生活活動の作業療法. 中央法規 2)才藤栄一:臨床技能とOSCE(機能障害・能力低下への介入編). 金原出版株式会社						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	コースガイド ADL(日常生活活動)とIADL(手段の日常生活活動)の概念					
	2	身体障害領域におけるADL評価法総論				振り返りシートで復習すること	
	3	身体障害領域におけるADL評価法各論				振り返りシートで復習すること	
	4	FIM演習				振り返りシートで復習すること	
	5	セルフケア動作介入への思考過程				振り返りシートで復習すること 宿題レポートを提出すること	
	6	食事動作に対する介入技能				振り返りシートで復習すること 宿題レポートを提出すること	
	7	更衣動作(上衣)に対する介入技能				振り返りシートで復習すること 宿題レポートを提出すること	
	8	更衣動作(下衣)に対する介入技能				振り返りシートで復習すること 宿題レポートを提出すること	
	9	車いすの基礎				振り返りシートで復習すること 宿題レポートを提出すること	
	10	車いす駆動介助技術				振り返りシートで復習すること 宿題レポートを提出すること	
	11	車いす駆動に対する介入技能				振り返りシートで復習すること 宿題レポートを提出すること	
	12	車いすシーティング①(リクライニングとティルティング車いす)				振り返りシートで復習すること 宿題レポートを提出すること	
	13	車いすシーティング②(車いすクッション)				振り返りシートで復習すること 宿題レポートを提出すること	
	14	車いすシーティング③(ワークショップ)				振り返りシートで復習すること	
	15	まとめ				振り返りシートで復習すること	
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	レポート	◎	◎	○			20%
履修上の注意							